

令和6年度 第2回 川崎市地域公共交通会議 議事録

1. 開催概要

開催日時	令和6年8月29日（木）10時00分から12時00分まで		
開催場所	川崎市役所新本庁舎 復元棟1階102会議室		
議 事 （公 開）	(1) 令和5年度に実施したコミュニティ交通の導入に向けた取組について 【報告事項】 (2) 今年度実施予定の協議会を主体としたコミュニティ交通の取組について 【報告事項】 (3) 今年度実施予定の民間事業者による新技術・新制度を活用した取組について【報告事項】 (4) 地域公共交通に係る意見交換 【報告事項】		
出席委員 （ 名 ）	(敬称略)		
	所 属	氏 名	備考
	東海大学 工学部土木工学科 教授	梶田 佳孝	
	名古屋大学 特任准教授	有吉 亮	
	神奈川中央交通株式会社 常務執行役員 (一般乗合旅客自動車運送事業者)	齋藤 謙司	代理出席 橋山担当課長
	川崎タクシー株式会社 代表取締役会長 (一般乗用旅客自動車運送事業者)	関 裕之	代理出席 鶴岡顧問
	明生タクシー株式会社 常務取締役	村岡 孝夫	
	高砂交通株式会社 総務部長	増村 幸一	
	一般社団法人 神奈川県バス協会 専務理事	関上 義明	
	一般社団法人 神奈川県タクシー協会川崎支部 事務局長	大葉 章彦	代理出席 阪西事務局 長代理
	川崎市全町内会連合会 副会長	浦野 一吉	
	市民（公募による選出）	島岡 学	
	市民（公募による選出）	二瓶 博和	
	国土交通省関東運輸局神奈川運輸支局 首席総務企画専門官	宿谷 幸利	
	国土交通省関東運輸局神奈川運輸支局 首席運輸企画専門官	森下 文章	
	神奈川県交通運輸産業労働組合 幹事	小山 國正	欠席
	神奈川県警察本部 交通部 交通規制課 都市交通対策室長	白砂 照彦	欠席
	川崎市 建設緑政局 総務部長	櫻井 雅幸	欠席
	川崎市 まちづくり局 交通政策室長	塚田 雄也	
	事務局	5名	
傍聴者	0名		

2. 会議内容

以下、進行内容を要約して記載。

- (1) 令和5年度に実施したコミュニティ交通の導入に向けた取組について 【報告事項】
- (2) 今年度実施予定の協議会を主体としたコミュニティ交通の取組について 【報告事項】
- (3) 今年度実施予定の民間事業者による新技術・新制度を活用した取組について 【報告事項】

事務局 (資料1により、内容を説明。)

梶田会長 はい、ありがとうございます。それでは、令和5年度に実施した取組について、報告いただきました。様々なエリアでの実験結果等や今後の実験についてご説明いただきましたが、何かご質問等ございましたらお願いできればと思います。いかがでしょうか。

二瓶委員 ご説明ありがとうございます。資料1-11のところで、収支については素晴らしい結果だと思いますが、収支差が月3万円程出ているかと思いますが、誰が補填をしているのでしょうか。

事務局 実験としては市が収支差を補填するスキームを持っているため、市が補填をしています。今後の本格時にどのように対応するかは検討中です。

二瓶委員 ローゼンさんや地域企業の姿勢は、本格運行に向けても協賛金を出していただける雰囲気なのでしょうか。

事務局 現在、対話を進めているところでございます。資料1-11にあるような外出の目的づくりについて、地元企業様も課題解決の場を求めている思いがあるため、そのような地域の方とのコミュニケーションの場を継続して設けることが協賛金等の理解、協力につながると考えています。

二瓶委員 ありがとうございます。

梶田会長 ありがとうございます。他に何かございますか。

有吉副会長 「のるーと」について、2台運行で1日約70人1台当たり約35人程度の利用とありますが、会員登録者数という分母はどのくらいいるのでしょうか。

事務局 現在、のるーとの登録者数は約1500名です。今年度は有償運行となり、無償運行時よりも利用者が減ることが予想されるため、出来る限り周知、登録会の場を設けて登録者数を増やす予定です。

有吉副会長 3つの地域で異なる取組を行っているため、一つの考え方として、つばめ号であれば登録者数という分母に対しておよそ10%の利用者数を獲得できているといった、登録者数に対する利用者という、潜在需要の顕在化率を一つの指標として、様々な取組についても比較検討の連携が取れるとよいと思います。

事務局 ありがとうございます。今後検討いたします。

梶田会長 はい、ありがとうございます。

橋山委員 資料1-25のアンケートで利用しなかった理由とありますが、どのようにアンケートを取っているのでしょうか。乗っている方に向けたアンケートではないのでしょうか。

事務局 LINE の登録者に向けたアンケートのため、登録したけども利用しなかった方の御意見も得られています。

梶田会長 チョイソコのアンケートはどのくらい回答があるのでしょうか。

事務局 309 名に回答いただけています。

関上委員 チョイソコしんゆりについて、交通渋滞対策が目的の 1 つとしてあったと思いますが、今回の実験から目に見えるような結果はあるのでしょうか。

事務局 昨年の実証実験では目的の 1 つとしては置いていましたが、1 台運行ということもあり改善につながる検証まで行き届いていません。

関上委員 わかりました。

梶田会長 決済方法がいくつかありましたが、現金が多かったなどの利用の内訳結果はありますか。

事務局 ご利用の比率までは把握できていません。若い方の利用が多かったので、スマホを利用した決済が多かったのではないかと思われています。予約方法についてはコールセンター等も設けていましたが、95%が WEB 予約という結果が出ており、スマホの利用が浸透していると思われます。

村岡委員 つばめ号は 1 日で行って帰るイメージがないためどのような利用になるのでしょうか。

事務局 できれば 1 日券を購入してもらい、一回降りて、例えば通院等のついでにランチをしたり、お買い物をしていただいてから処方薬を取って帰る行動が 1 つのあり方として外出促進につながると考えられます。

鶴岡委員 様々なコミュニティ交通の取組がありますが、どういうコースで利用するとコミュニティ交通が便利だとか、こんな使い方があるという取組例はあるのでしょうか。

有吉副会長 本日の資料にはないが、おっしゃる通りで、そのようなはしごルートについても行動パターンを検証し、報告していただきたい。

鶴岡委員 こんな使い方があるという取組を是非検討してもらえればと思います。

梶田会長 ありがとうございます。その他、御質問等はよろしいでしょうか。
それでは続いて、「議事 2、今年度実施予定の協議会を主体としたコミュニティ交通の取組について」及び「議事 3、今年度実施予定の民間事業者による新技術・新制度を活用した取組について」につきまして、事務局より説明をお願いします。

事務局 (資料 2、資料 3 により、内容を説明。)

梶田会長 はい、ありがとうございます。今年度実施予定の各取組について、事務局より説明がありましたが、委員の皆様から、御質問・御意見等がありましたらお願いいたします。

有吉副会長 かきまる号に関して、企業協賛数や個人協賛者の金額はどのくらいなのでしょう

か。

事務局 企業の協賛については 10 社から名乗りを挙げていただいております、個人サポーターについては約 30 名強ほど伺っております。

有吉副会長 ありがとうございます。追加車両の予約システムはあるのでしょうか。

事務局 はい、あります。

有吉副会長 そこがちょっとわかりづらいため、事前に予約してよいということはわかりやすく周知した方がよいと思います。

事務局 わかりました。

有吉副会長 生田山の手地区の「山の手号」について、色々ご苦労されているかと思いますが、例えば生田駅から A,B,C 地点を一筆書きで一周回ってどこかに戻ってきたら、どの程度の距離、金額となるのでしょうか。

事務局 A,B,C 地点を回ると、C までのところで 1.1~1.2km 程度の、1.09km が初乗り運賃としますと初乗り+α くらいの距離感と思われます。

有吉副会長 そうすると大体ざっくりと 500 円もしない金額でしょうか。

事務局 今ですと 1000 円弱程度と思われます。

有吉副会長 今回協議会が間に入るスキームのため、一周がその金額であれば、2 人や 3 人で割って乗ることも可能になると、盛り上げることができると思います。

事務局 はい、ありがとうございます。

有吉副会長 チョイソコかわさきについては、企業主体の事業であることは理解しましたが、それぞれの地域で住民とのコミュニケーションの場などは設定されているのでしょうか。

事務局 運行開始にあたって、地元の自治会を通じて情報提供はしています。直接のコミュニケーションの場は設けていません。ただ周知にあたって、それぞれの商業施設や病院等で PR の場を設けており、その中で会員登録やデマンド交通の必要性、地域の現状を対面の形で伝える場を設けています。

有吉副会長 わかりました。協議会主体と企業主体では仕組みが異なるため、仕方ないことではあると思いますが、一方通行のコミュニケーションではなく対話することで改善や進化が図れると思いますので、年に 1 回などでもそのような場を設けることはよいと思います。

梶田会長 ありがとうございます。その他、御質問等はよろしいでしょうか。

橋山委員 チョイソコかわさきについて、先ほど実施主体がアイシンと伺ったが、昨年双日実施の際あったコールセンターは今年もあるのでしょうか？

事務局 現在調整中です。運行事業者では条件が厳しい面もあり、アイシンで対応可能か含め調整している。予約については昨年の実績から 95%は WEB で受けている状況ではあります。

梶田会長 ありがとうございます。様々な地域で取組みを行っておりますが、それぞれの住

民の方とコミュニケーションをとりながら行っていければと思います。

（４） 地域公共交通に係る意見交換 【報告事項】

梶田会長 ありがとうございました。続いて、次に、「議事４、地域公共交通に係る意見交換」について関東運輸局様及び事務局より説明をお願いします。

宿谷委員 （資料４により、内容を説明。）

事務局 （資料４により、内容を説明。）

梶田会長 ありがとうございました。以上、関東運輸局様及び事務局より資料について説明がりましたが、委員の皆様から、御質問・御意見等がありましたらお願いいたします。

関上委員 神奈川県全体で令和元年度末から約 15%程度バスが減便しており、利用者数についてもコロナ前から減少しています。地域の民間事業者が支えるという考え方もですが、地域の住民の皆さんで支えるという考えが今後は重要になってくるのかなと思います。バス協会としてもよろしくをお願いいたします。

橋山委員 バスはもちろんタクシーの運転手についても高齢化が顕著でございます。全国平均も 53, 4 歳と言われており、このまま推移をしますと平均 60 歳となり十分に稼働が出来なくなってしまう状況です。採用したくても、職業として運転手を選んでいただかず、バスを走らせたくても走らせることが出来なくなってくるという非常に厳しい状況にあることはご理解いただきたいです。

塚田委員 川崎市としてもかなり深刻と認識しています。国の取組でライドシェアもありますが、市としてもタクシー事業者には何かできないか検討している状況でございます。しかしやはり市民の皆様にとってタクシーは高級なものという認識が強く、迎車料金 500 円というのも消費者負担が大きくなっている印象です。一方でバスの運行については深夜バスの運行が川崎市ではほぼ出来ていないことも現状の 1 つとして挙げられます。コロナも明けて、遅い時間帯まで働いている方たちの交通手段が限られており、高齢者の交通手段についてもバスが無くなることはかなり深刻に捉えています。バスの運行が無くなった後に認識するのではなく、無くなる前からフォローすることが大切と考えていますが、現状、まだバスが走っている地域が多いため、まだ走っているから大丈夫というように捉えてしまう住民の皆様が大半の状況です。そのため、将来を地域の皆様で支えていきたいと思いますという考えを広く認識していただかないといけないので、まず私たちは周知徹底を行いながら、将来の交通を守っていくことにご理解いただける社会を作っていきたいと考えています。

有吉副会長 1 つ目に、バスが減ってしまった地域を移動しやすくしようという取組の中でデマンド交通もありますが、必ずしもその選択肢ではないと考えています。定時定路線、デマンド交通等、多様な手段の中で、どれがその地域に合うのかをしっかりと突き詰めて検証していく必要があると思います。川崎市では様々な地域で多様な取組を行っているので、是非並列化して比較検討を行っていただきたい。2 つ目に、色々なスキームを行った中で、違う支え方のスキームを本格的に考えていく必要があると思います。使わない、乗らなくても支えるようなスキーム作りが大切になってくると思います。これだけたくさんの地域でユニークな取組をされているが、横の情報共有、知見

の共有が出来ていないように思われるので、知見の横連携、横の共有をしっかりといただき、国の取組、伴走プランで取り込めるものはないか検討していただきたい。

事務局 ありがとうございます。

二瓶委員 資料 4-23 のところで地域の皆さんで支えるとありますが、すごく大事なことだと思います。支えることによって認識もできますし。個人の考えとしては、町内会をより活用した方が良いのではないかと思います。

事務局 ありがとうございます。

浦野委員 町内会で言うと、川崎区では「のるーと」が運行していますが、今年度支所機能がなくなるにより、停留所となっていない川崎区役所への移動が多くなることが予想されるため、横の情報連携をとっていただき、エリア外の停留所として追加できるような市民目線の検討を今後行っていただけるとありがたい。

梶田会長 はい、ありがとうございます。タクシー協会様からは何かありますでしょうか。

阪西委員 先ほどのライドシェアのお話になりますが、川崎市内でもライドシェアは行っているのですが、タクシー事業所に余っている車両や自家用車を使用して行っている状況です。ライドシェアについて、市内のタクシー乗り場をモニタリングするとお客様を 10 分以上待たせずに乗せることが出来ていたため、タクシー不足と言われている地域でお客様を 10 分以上待たせてしまっていることは現状無いということはご報告させていただきます。

梶田会長 はい、ありがとうございます。

村岡委員 タクシー協会からは日本版ライドシェアというお話がありましたが、ライドシェアは車のいない時間帯となっており、公共交通機関や相乗りに関しては、今現状お電話いただいて家につただけで 1000 円になっているという現状でございます。迎車料金が 500 円で初乗り運賃が 500 円という形です。そういう意味で年配者の方が地域の近いところの医療機関に行く場合でも、交通の空白の時間帯がある場合は、相乗り等を活用して単価を下げて実施した方が良いと思います。ただこれもやはり行政と町会が一体となった周知をしていき、多くの方が利用できる時間帯を構築していくことが、ライドシェアと同時に残された問題かなと感じました。

梶田会長 はい、ありがとうございます。神奈川中央交通様はいかがでしょう？

増村委員 業界としては、やれることは何でもやらなければという意識はある。大都市のライドシェアに関しては見切り発車してしまった部分もあるので、当初はアプリが使える人しか使えない、混雑している週末の夜中でしか使えないシステムだったが、天気予報が 35℃以上の日はライドシェアをやっ払い、雨の日はやっ払いというように実施することで段々と足りないところが足されていくような体制をとることができました。そのような意味で皆さんの移動の足を業界で支えていこうという方向性ではあります。人手不足は慢性的に抱えてきている問題ではあるので、これを何とかしなければいけないという意識はありますが、今あるものでいかに効率的に迅速に利用ができるかというところにフォーカスして運行していけたらと思っています。

梶田会長 はい、ありがとうございます。市民委員の皆様はいかがでしょう？

島岡委員 私は中原区在住の一市民なのですが、大学の専攻が交通経済学を学んでいて、今まさに国土交通省が取り組んでいることをテーマにしていました。今中原区民となって地域公共交通会議に参加させていただいているのですが、今現在、色々な都道府県で町おこしに参加しているのですが、中原区民としては、中原区はすごく恵まれていて、このような中原区の成功事例を、本当に必要としている地域が沢山あるので、川崎市でロールモデルを作って、日本全国の必要なところに展開し、「川崎市＝交通の街」にできるのかなと考えていました。しかし地域によって昔ながらの方法や、強制的に移動を進めるスマートシティ化などのあるため、今回の会議に参加して、改めて中原区民で良かったと認識しました。ありがとうございます。

梶田会長 はい、ありがとうございます。色々な意見交換ですので、情報の共有もして様々な角度から貴重なご意見をありがとうございます。その他、御質問等はよろしいでしょうか。

それでは、報告事項 「地域公共交通に係る意見交換」については、以上といたします。

本日の議事は以上となりますが、その他、皆様から御連絡事項等がありましたら、お願いいたします。よろしいでしょうか。

事務局 梶田会長ありがとうございました。

本日は報告事項4件の議事につきまして、円滑な進行にご協力いただき、改めて委員の皆様に御礼申し上げます。また、本日は梶田会長におかれましては、議事進行頂き誠にありがとうございました。

今年度につきましては、引き続き各地区への支援の取組を進めるとともに、新技術・新制度を活用した取組を展開することで、コミュニティ交通の充実を図り、より利用しやすい地域公共交通環境の形成を目指してまいりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。また、次回の本会議につきましては、開催時期は未定となっておりますけれども、詳細が決定次第、皆さまにご案内をさせていただきます。尚、本日の議事録につきましては、事務局にて作成をさせていただきます。本市のホームページ上で公開させていただきます。以上で、令和6年度第2回川崎市地域公共交通会議を閉会とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。